

## 愛知の病院

つなごう医療

&lt;125&gt;

外來が終わった夕方、診察室の一室に医師が集まってくる。総合内科の面々。草深裕光副院長から研修医までが車座になり、患者の訴えや病状の変化、投薬の状況などを検討する。研修医の報告に副院長以下先輩らが助言するが、時に笑い声も。自由闊達な意見交換が進められる。

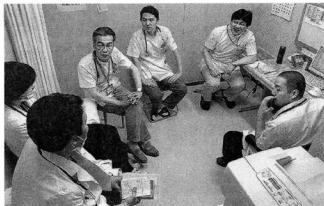
「民間のがんセンター」を指して、一九八五(昭和六十)年に開院した名古屋記念病院。従来の臓器別診療科の枠組みにとらわれぬ「患者中心のチーム医療」と「診療と教育の両立」を旨とする総合内科が設立されたのは、二〇〇三年四月のことだ。

体の具合が悪いのは、どんな病気のせいなのか分からない。そんな患者

## 名古屋記念病院 名古屋市天白区

のため、内科系の病気を一般に通じた総合内科の医師たちが広い視野で診断し、治療を進める。

入院してから退院した後まで、患者の生活を考えたチーム医療の体制も組まれる。肺炎などで入院する高齢者には、そのまま寝たきりになってしまつ人も。そうならないよう、肺炎治療を始める



総合内科医師らが毎日行う症例検討会  
＝名古屋市天白区の名古屋記念病院で

## チーム制の総合内科

のと同時にリハビリスタッフや管理栄養士、ソートやシャルワーカーらが連携を取り、最善の医療を提供していきたい」と、西岡弘品部長。

「総合内科医は十種類ある。医師による症例検討の選手のようなもの。心優しい、よきシエネ

ラリスト(総合医)を看護師やリハビリスタッフ、専門医と適切な連携を取って最善の医療も加わる。「レベルの救急外來での外傷治療に力を入れ、傷を乾かさない、消毒しない「湿潤療法」の実績も多い。

「看板」のがん治療で、六月に県のがん診療部と周辺市町の二次救急連携拠点病院に指定された。

「総合内科医は十種類ある。医師による症例検討の選手のようなもの。心優しい、よきシエネ

は毎日。週一度は、看の要でもある。夜間は内

れ、血液・化学療法内

科、化学療法内科を中心

名古屋記念病院  
▷創設 1985年▷46  
4床▷常勤医102人、非常勤医64人▷総合内科、血液・化学療法内科、循環器内科、消化器外科、胸部外科など42診療科▷名古屋市天白区平針4。地下鉄鶴舞線平針駅から徒歩5分▷電052(804)1111



絶えず技術向上を  
藤田民院長の話  
医師不足の時代にあつて、総合内科と救急部を中心に支えている救急医療を、さらに充実させてきた。開院以来力を入れてきたがん治療は、六月に県がん診療連携拠点病院の指定も受けた。医療は継続性が大事。スタッフ間のコミュニケーションを密にしながら「変革の時代に必要なら医療」を指し、絶えず技術向上させていきたい。

この連載は土曜日に掲載します。過去の記事は「中日 医療サイ」で読めます。